

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_名古屋2010年版

|使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya2010_V1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋駅新ビル(仮称)他計画	階数	地上46階、地下6階
建設地	愛知県名古屋市中村区名駅1丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域、駐車場整備地区他	平均居住人員	26,000 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	5,500 時間/年
建物用途	事務所、物販店、飲食店、等	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2015年12月 予定	評価の実施日	
敷地面積	11,695 m ²	作成者	
建築面積	10,593 m ²	確認日	
延床面積	259,517 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 72%
 ③上記+②以外の 72%
 ④上記+ 72%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 4.0

Q1 室内環境: 3.5, 3.6, 4.3, 4.4

Q2 サービス性能: 4.1, 3.7, 3.8

Q3 室外環境(敷地内): 3.0, 5.0, 4.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー: 4.5, 3.6, 4.7, 5.0

LR2 資源・マテリアル: 4.0, 3.9, 3.8

LR3 敷地外環境: 4.1, 3.8, 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	歩行者ネットワークの整備を行い、各公共交通機関の乗換利便性を向上させ、交通結節点の機能を改善した。商業・文化交流・業務拠点・オープンスペースの形成により、賑わいのある都市空間を形成し、周辺地域の質的向上に寄与した計画とした。また、高効率設備の導入による省エネルギー化や、緑化による潤いの創出により自然環境に配慮した都市空間を形成した。	その他 既存建物低層部と各階で接続することにより、既存建物と一体で多彩な機能を集積した複合立体都市を形成し、多様なニーズに答えられるコンパクトシティを実現した。
Q1 室内環境	Low-e複層ガラスの採用、空調ゾーンの細分化による温熱環境の最適化、昼光センサーや自然採光による光環境の最適化を行い、快適な空間環境とした。	Q2 サービス性能 高い耐震性と浸水対策による安全性を確保し事業継続計画をサポートした。名古屋駅と直結した歩行者ネットワークにおける、商業施設を取り込んだ賑わいのある演出や内装デザインを計画した。
LR1 エネルギー	Low-e複層ガラス・日射遮蔽ルーバー等により、建物の熱負荷抑制を図った。変風量制御・CO2制御・外気冷房・LED照明等、実効性の高い高効率設備システムを導入し、消費エネルギーの低減を図った。また、太陽光発電パネルの設置により、自然エネルギー利用にも配慮した。	LR2 資源・マテリアル 雨水利用や節水器具の採用により、水資源消費の低減を行った。リサイクル資材や再利用可能性の高い材料を使用することで非再生性資源の使用量削減に努め、環境負荷の低減に配慮した。
		LR3 敷地外環境 屋上緑化や保水性舗装によってヒートアイランド現象を抑制する計画とした。雨水貯留槽による下水道への負荷を抑制する計画とした。駐車場の車路を既存建物と共用し、荷捌出入口はバス・ミナル出入口に集約し、周辺交通への影響軽減や安全性に配慮した計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい